

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-46

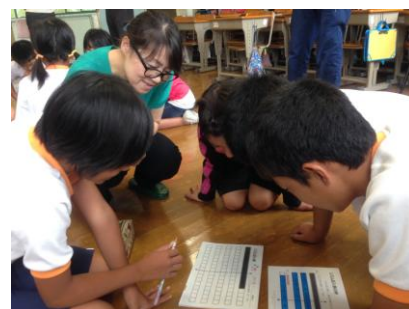
学校名・団体名	浜松メディア教育研究会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	協働学習での学級歌作りによる思考力、 表現力の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>学級歌づくりを通して、一人一人の思いを、グループや学級で共有言語化・旋律化していく実践である。作詞や作曲の過程で、グループ内での話し合いにおいて、建設的妥協点を探りながら協働的に制作活動を行うことをねらいとしている。そこで、タブレット端末を用いることで、思考が可視化され、話し合い活動が焦点化されると考える。グループでの協働学習を通して、思考力、判断力を育成していきたい。また、交流校と相互交流しながら、情報モラルについても、実体験を通しながら学ばせていきたい。</p>	

本実践研究では、タブレットのアプリ「ボーカロイド (YAMAHA)」を活用した。このアプリは、作成した歌詞の長さに合わせて、ワンタッチで伴奏を作ることができるアプリである。

本研究では、浜松市内の三ヶ日西小学校6年生と中瀬小学校6年生の2校で、学級歌をつくりながら、交流をした。

1 学級歌づくり

作成過程では、国語科での「詩」の学習や音楽科での旋律づくりの学習と関連付けて合科的学習を進めた。3つのグループ(「Aメロ」・「Bメロ」・「サビ」)に対するテーマを決めたあと、一人一人がワークシートにイメージマップを書き、イメージを広げた。そして、各自の思いをグループ内で共有をした。その後、グループで話し合いながら、歌詞に入りたい言葉を絞り込んでいった。中心のなる言葉から、自分たちのテーマに合った気持ちを表現する言葉でつなぎながら、歌詞を考えていった。その際、グループで各自の思いや考えを共有したり分類したりするために、ホワイトボードと付箋紙を活用した。ホワイトボードを活用したのは、書いたり消したりしながら、歌詞を考えることができるからである。意見が衝突した際には、学級歌のテーマに合うかどうか考えさせ、適切だと思える言葉を選択させるようにした。各グループでできあがった歌詞は、学級全体で共有し、グループごとの前後のつながり、意味などを考え、質問したり意見を言い合ったりして、修正を繰り返しながら完成をした。



2 交流学習

作成過程においては、タブレット端末でテレビ会議システムを通して、専門家(YAMAHA)に指導助言、アドバイスをしてもらった。歌詞が完成したあと、遠隔システムを使って学級歌を作っている学校と歌詞を披露しあった。互いに同じことを行っている二校が交流することで、良い刺激を受け取り、創作活動への意欲が増し、広い視野を持って活動に取り組めることができた。交流は「Skype」を使用し、音声と動画による学校紹介と歌詞の披露を行った。交流後、作曲を行った。作曲のポイントをYAMAHAの方から説明を受け、VOCALOIDで曲作りを行った。イメージに合う伴奏を3種類の中から選び、歌詞の言葉ごとに音を置いていく。途中でもすぐに何回も聴くことができるため、修正を繰り返しながら完成させていった。最初の交流をすることで、よりよい曲を作りたいと主体的に学習に取り組んでいた。

完成した曲は、合唱曲とし、歌の練習をして、遠隔交流により相手校に披露をした。また、歌唱的な指導をいただくために、専門家としてYAMAHAの方々も参加し、三者による交流を行った。歌を聴いてもらえるということに対する満足感が子どもたちにあり、歌うことを楽しく感じている子どもが多くいた。完成した歌は、学習発表会での披露や卒業式での合唱とつなげてき、学級内だけに留まらない学習展開が、子どもを主体的に学習に取り組ませたと考える。



3 セミナーによる啓発

実証研究で得られた知見を、浜松でセミナーを開催し、実践発表やワークショップ研修を通して、市内外の教員に広めた。講師に金沢星稜大学佐藤幸江教授をお招きし、学級歌づくりについて、実践発表とワークショップ研修を行った。参加者は、県内外60名に及んだ。また、本研究の成果をリーフレットにまとめた。今後、県内外での研究会等で配布し、啓発をしていく予定である。